

北部版

和泉の自然

— IZUMI no Shizen —



しぜんかんきょうちょうさ

自然環境調査

平成 20 (2008) 年～令和 4 (2022) 年

ほんしょ

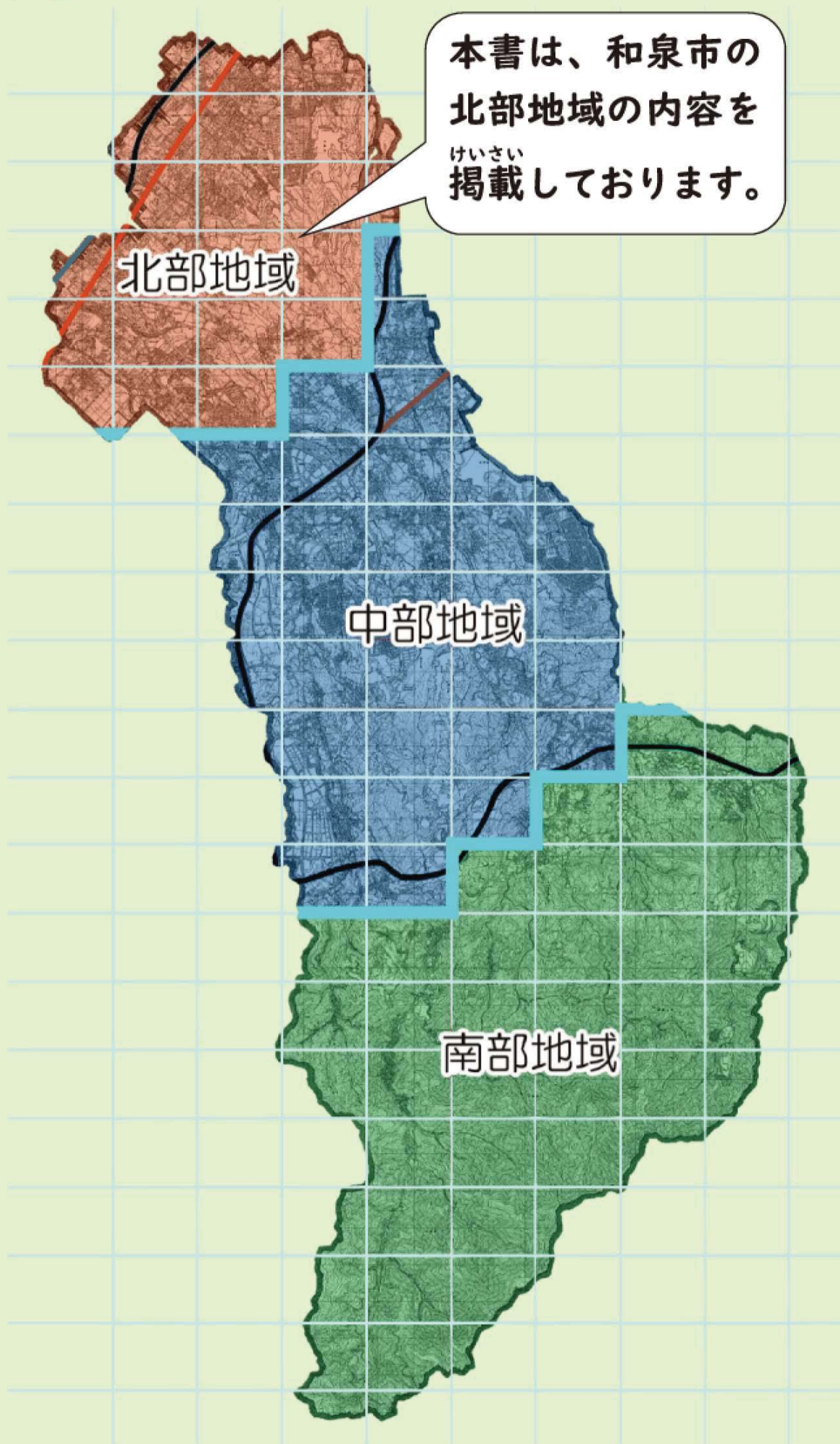
本書について

本書は、和泉市の
北部地域の内容を
けいさい
掲載しております。

北部地域

中部地域

南部地域



和泉市では平成 20 年度から市内の自然環境を調べています。平成 25 年度からは一辺 1 km の四角形（メッシュ）で市内を区切り、その中の生き物を順に調べています。みなさんもぜひ身近な生き物を調べてみましょう。

北部地域の自然環境

和泉市は南北に榎尾川が流れていて、川の中や河川敷などには水鳥や水辺の植物、昆虫などが見られます。

北部地域は全体的には市街地ですが、北東部の信太山丘陵は陸上自衛隊の駐屯地として開発を免れたことによ

り、貴重な湿地や草原が残されていて、カヤネズミ、ヤマトサンショウウオ、ヒメアカネ、サギソウ、トキソウ、ムカゴニンジン、コモウセンゴケなど貴重な生き物を今でも見ることができます。また観察に適した信太山丘陵里山自然公園が開園します。

黒鳥山公園周辺は田畑が多く残っており、フタスジサナエやマイコアカネなどの昆虫や、セッカ、ケリ、ヒクイナなどの



ネジバナ（ラン科）



サクラタデ（タデ科）



オカトラノオ（サクラソウ科）



フタスジサナエ（サナエトンボ科）

とり
鳥が見られます。

まきおがわ かせんじき たはたしゅうへん
榎尾川の河川敷や田畑周辺ではイカル
チドリやコチドリ、ケリなど水^み辺^{ずべ}の生^いき
物^{もの}がよく見られますが、外来種であるク
ロマダラソテツシジミやアオマツムシを
はじめ、特定^{とくていがいらいせいぶつ}外来生物のオオカワヂシャ
やアレチウリ、ナルトサワギク、オオキ
ンケイギクなど、外国^{がいこく}などからやってき
た生^{ひろ}き物が広がっています。



ホシミスジ(タテハチョウ科)



オオトモエ (ヤガ科)



シロスジカミキリ (カミキリムシ科)



チョウゲンボウ(ハヤブサ科)



コチドリ(チドリ科)



ケリ (チドリ科)

ぶんるい 分類	市内全域のデータ		北部地域のデータ	
ほにゅうるい 哺乳類	10 科	14 種	5 科	5 種
ちようるい 鳥 類	43 科	122 種	34 科	85 種
りようせいるい 両 生 類	7 科	12 種	4 科	6 種
はちゅうるい 爬虫類	9 科	15 種	7 科	9 種
こんちゅうるい 昆虫類	170 科	799 種	136 科	496 種
しよくぶつ 植 物	170 科	1404 種	146 科	867 種
ごうけい 合計	409 科	2432 種	332 科	1468 種

※このリストは平成 20(2008)年～令和 4(2022)年の調査結果をまとめたものです。

サギソウ (ラン科)



湿地で8月にサギが羽を広げたような美しい花を咲かせます。

トキソウ (ラン科)



湿地で初夏に咲き、花の色がトキの色に似ているので名付けられました。

テリハノイバラ (バラ科)



葉に照りがあって固く、初夏に大きめの花を咲かせます。

センブリ (リンドウ科)



葉はとても苦くて昔は胃の薬として使われていました。秋に咲きます。

コモウセンゴケ (モウセンゴケ科)



ねばねばした葉に虫をくっつけて食べてしまう食虫植物の仲間です。

クララ (マメ科)



日当たりのいい草原や土手に生え、夏に花を咲かせます。

スズサイコ (キョウチクトウ科)



日当たりのいい土手などの斜面に生え、夏に不思議な形の花を咲かせます。早朝に咲き、日が当たると閉じます。

ムラサキサギゴケ (サギゴケ科)



少し湿った空き地で春に花を咲かせます。雌しべの先は上下に開いていて、触るとすっと閉じます。



ヤマトタマムシ (タマムシ科)

美しく有名な昆虫。幼虫はエノキやサクラの幹に穴を掘って食べています。



モモブトカミキリモドキ (カミキリモドキ科)

春にタンポポの上で見つかる小さな甲虫。雄は後ろ足が太く、雌は後ろ足が細いです。



ウラナミシジミ (シジミチョウ科)

翅の裏側に細かなしま模様があり、幼虫はマメ科の植物を食べます。



ツマグロヒョウモン (タテハチョウ科)

南方系のチョウでしたが、温暖化で今では普通種。雌は前翅の先が黒いです。



ヒメアカネ (トンボ科)

小さなアカトンボで、雄はお腹が赤くなり、顔が白くなります。



ウチワヤンマ (サナエトンボ科)

サナエトンボの仲間で、身体がやや大きくおなかの先がうちわのように広がっています。



トゲナナフシ (ナナフシ科)

ナナフシの仲間は雌だけで卵を産んで増え、めったに雄は見つかりません。トゲナナフシのオスは今まで数匹しか見つからず七不思議です。



ヒロバネカンタン (マツムシ科)

目立たない色合いで葉の裏側に止まっているので、なかなか見つかりません。お腹が黒くないのがカンタンとの違いです。



ミコアイサ (カモ科)

ふゆどり 冬鳥。日本に渡ってきた後、雄はパンダのようなきれいな羽に変わります。



ノスリ (タカ科)

冬鳥。草原や森の上をゆっくり飛んで、ネズミや昆虫などを探しています。



ヒクイナ (クイナ科)

なつどり みずべ 夏鳥。水辺でひっそりと過ごしているため、なかなか見ることができません。



イソシギ (シギ科)

いけ 池や川の水辺に1年中いますが、どこで繁殖しているのか謎の鳥です。



オオヨシキリ (ヨシキリ科)

夏鳥。水辺のヨシ原で繁殖し、ギョギョシ、ギョギョシと大きな声で囀ります。



カワセミ (カワセミ科)

と 飛ぶ宝石と言われる、とても美しい鳥。水に飛び込んで魚を食べます。



イソヒヨドリ (ヒタキ科)

もともと南方系の海岸に住む鳥でしたが、街中でどんどん繁殖するようになりました。雄は青く雌は褐色の色をしています。



ハクセキレイ (セキレイ科)

なが お 長い尾を上下に振りながら歩きます。かつては冬鳥でしたが、今は1年中見られます。白い顔に黒い線が特徴です。



ホンドタヌキ (イヌ科)

夜行性でなんでも食べ、意外と街中にも住んでいます。



ヤマトサンショウウオ

(サンショウウオ科)

以前はカミサンショウウオと呼ばれていた小さなサンショウウオです。



トノサマガエル (アカガエル科)

一昔前の水田にはたくさんいたカエルですが、最近はとて少なくなっています。



クサガメ (イシガメ科)

首にしま模様があって、甲羅に3本の盛り上がりがあり、うしろは丸いです。



ヒバカリ (ナミヘビ科)

毒蛇で噛まれるとその日ばかりと恐れられていましたが、実は無毒のヘビです。



ニホンヤモリ (ヤモリ科)

身体は柔らかくてガラス面にも指でくっつくことができ、虫を食べてくれます。



ニホントカゲ (トカゲ科)

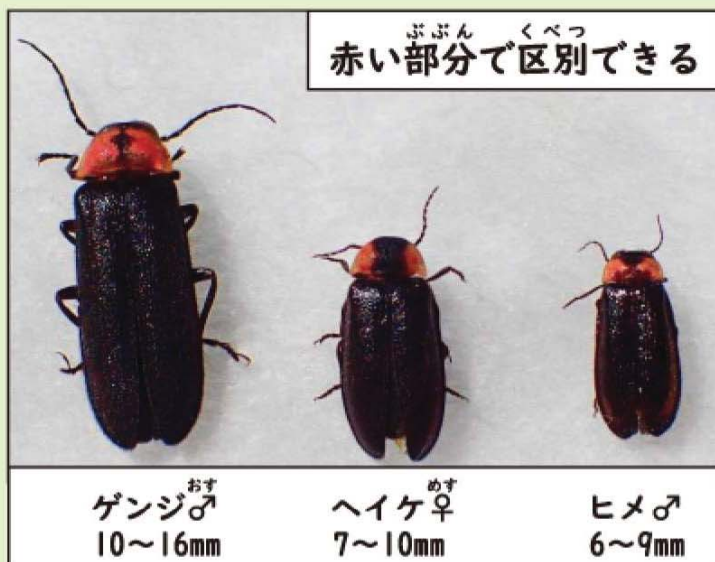
こどもの時は尾が青くてしま模様がありますが、おとなになると全身が茶色に変わります。触るとぬめった感じがします。



ニホンカナヘビ (カナヘビ科)

ニホントカゲに似ていますが、こどももおとなも茶色でかさかさした感じです。尾が身体よりかなり長いのが特徴です。

ホタルを調査しよう



ゲンジボタル(人気種)

5月下旬から数秒間隔でゆっくり明るく光り、比較的きれいな川にいるカワニナという巻貝を食べます。

ヘイケボタル(希少種)

5月頃からやや弱く約1秒間隔で光り、人里近くの水田の周りや溝などに住む小さな巻貝を食べます。

ヒメボタル(希少種)

チカチカと短い間隔で明るく光り、陸に住む小さな巻貝を食べます。メスは飛べないので住む場所が荒らされると消えてしまうことから、自然環境を調べる目印になっています。

北部のホタルまとめ

榎尾川の郷荘橋から上流の竹林や川原でヒメボタルがよく見られます。ゲンジボタルは希ですが、大野池や田んぼ周辺の溝などを探せばヘイケボタルを見つけられる可能性があります。



平地のヒメボタル：5月中旬に川沿いの竹林でチカチカと光ります



山間部のヒメボタル：7月上旬の深夜に杉林でチカチカと光ります



キショウブ (アヤメ科)

ヨーロッパ～西アジア原産。水辺に群生して黄色い花を咲かせます。



シンテッポウユリ (ユリ科)

種から1年で花を咲かせるので、空き地などでどんどん増えてしまいます。



オオバアメリカアサガオ (ヒルガオ科)

熱帯アメリカ原産。園芸種として植えられ、どんどん広がってしまいました。



特 ナルトサワギク (キク科)

南アフリカ原産。冬でも花をずっと咲かせて、どんどん種を飛ばします。



特 アレチウリ (ウリ科)

北アメリカ原産。河川敷を埋め尽くすほど群生し、棘のある実を付けます。



クロマダラソテツシジミ (シジミチョウ科)

東南アジア原産。ソテツという植物の新芽をポロポロに食い荒らします。



アカミミガメ (ヌマガメ科)

北アメリカ原産。ミドリガメとして売られていたものが野生化しました。



特 ウシガエル (アカガエル科)

北アメリカ原産。オタマジャクシも大きくて、昆虫や小魚など口に入るものは何でも食べてしまいます。

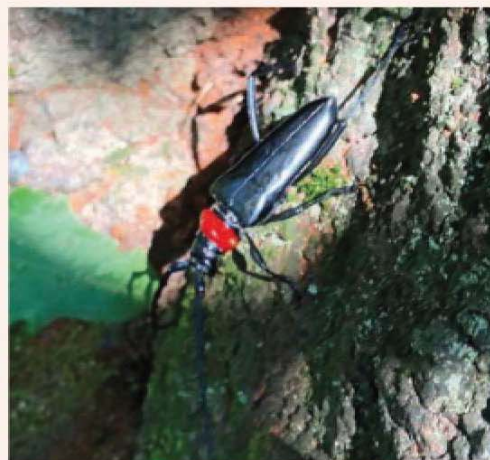
特 : 特定外来生物

特 クビアカツヤカミキリ^{ちゅうい}に注意しましょう

クビアカツヤカミキリは、サクラ・モモ・ウメなどのバラ科植物^{しよくぶつ がいちゆう}の大害虫で、移動や飼育等が原則禁止である特定外来生物^{とくていがいらいせいぶつ}に指定^{してい}されていて、近隣市^{きんりん}などでも大問題^{もんだい}になっています。

和泉市でも、令和3年から市内各地^{かくち}のサクラ、ウメ、スモモなどで発見^{はっけん}され始め、被害^{はじ ひがい}が少しずつ広がっています。

木の幹^{みき}から右の写真^{しゃしん}のように、うどん^{うどん}のよう^{よう}な木くず^{きくず}(フラス)が出ていたら、幼虫^{ようちゆう}が木の中^{しょうこ}にいる証拠^{しやうこ}です。クビアカツヤカミキリを見つけても絶対^{ぜったい}に持ち帰^{も かえ}ってはいけません。もし、公園などで発見した場合は、和泉市環境保全課までご連絡ください。



参考図書^{さんこうとしょ}

大阪府野生生物目録（大阪府）

河川水辺の国勢調査のための生物リスト（国土交通省）

わが国の生態系などに被害を及ぼす恐れのある外来種リスト（環境省）

決定版日本の野鳥 650（平凡社）

日本のトンボ（文一総合出版）

フィールドガイド日本のチョウ（誠文堂新光社）

改訂新版日本の野生植物（平凡社）

日本帰化植物写真図鑑（全農教）

※この資料は 500 部作成し、一部当たりの単価は 97.1 円です。



北部版

発行：令和5（2023）年3月
和泉市 環境産業部 環境保全課